

インタビュー その1

あいざわさん(館長／児童センター)

館長6年目、趣味:一人で山登り

柔和な笑顔が印象的なあいざわ館長に、インタビューをしてきました。



—この仕事に就いたきっかけは何でしょうか。

昔から子どもが好きで、かつては小・中学校の教員をしていました。定年退職後、他の仕事を経て、たまたま知り合いに誘われ、児童センターの館長になりました。

—その後、児童センター(低学年対象)と、子どもプラザ(高学年対象)の館長を兼務されていたことがあります。児童センターと子どもプラザに違いはありましたか。

子どもプラザに来る高学年の子どもたちは、だんだんと自主性が高まってくる年頃ですので、手をかけるポイントが低学年と違うとは思いますが、ただ、子どもであることに変わりはありませんので、根っこの部分は同じと捉えています。

—長年、子どもに向き合う仕事をされていますね。

子どもは今も昔も変わりません。ゲームやタブレットの普及など、環境は大きく変わってきたかもしれませんが、「子どもの心」は同じですね。

—1日のスケジュールを教えてください。

週5日、13時から18時の勤務ですので、間に合うように出勤します。13時には施設の支援員も出勤し、清掃や遊び道具の点検、準備といった一連の作業を行います。補助員も14時30分には来ますので、それから全員でミーティングを行います。

—全員で行うのですね。内容はこういった感じでしょうか。

今日のメインの遊び、また体育館の使い方や、天候等を考慮して外庭に出るか出ないかといった打ち合わせをします。また、前日の子どもの様子の共有や、個々の子どもへの接し方の打ち合わせなども行います。

—かなり具体的なことまで行うのですね。

ミーティングはとても重要だと思っています。その後、15時前からは、子どもが徐々にやってきます。「ただいまー」と言う子、無言の子、いろいろです。子どもの出席を取ってから、今日の注意事項や予定等を話します。登録している子は100人ほどですが、実際に来るのは60~70人といったところです。

—児童センター内で、0年生は〇〇室、のような割り振りは決めていますか？

子どもたちは好きなことをして、みんな思い思いに過ごすのですが、体育館や外庭は利用できる人数に限られるので、「1年2組は何時まで」のように割り振りを決めています。自主的に宿題をする子どももいます。

—お迎えは何時ごろになるのでしょうか。

16時~16時30分と、17時30分~18時がピークですね。子どもと接するだけでなく、館長としての事務作業をその合間を縫って行います。学校や地域との会議に出席したり、保護者から相談を受けることもあります。自分は18時までの勤務ですが、館は18時30分まで開いています。

—やりがいを感じるのはどんな時でしょうか。

「ただいま」と元気な声で入ってくる子どもを迎える時、嬉しそうに「さよなら」と言って保護者と帰っていく子どもを見送る時ですね。また、スーパーマーケットなど、児童センターの外で、にこやかに声をかけられるのも嬉しいものです。

—館長として心がけていることはありますか。

教員時代、大先輩が「ケガをさせるな、火事を出すな、ウソを教えるな」と言っていました。一つ目、「ケガをさせるな」は、子どもなので時にはケガをすることもあるかも知れませんが、少なくとも跡が残るようなケガをさせないこと。これには体だけでなく、心の傷も含まれると思います。二つ目、「火事を出すな」は、建物や施設を傷めない、大事にするということ。三つ目、「ウソを教えるな」は、子どもに誠心誠意、まっすぐに向き合えということ。これらは今でも自分のモットーです。

—いい言葉ですね。この仕事をしてみたい人にアドバイスはありますか。

子どもの心には垣根がありません。誰が来ても受け入れてくれます。また、子どもは日々成長します。毎日一緒にいると分かりづらいますが、ここを卒業（注：児童センターは基本的に小学校2年生までで、3年生からは子どもプラザ）した子が、通りがかりに手を振ってくれたりすると、大きくなったなあと思います。そういった子どもの、日々の成長を見られる仕事はなかなかありません。「昨日の彼は今日の彼ではない」という目で子どもを見ていると、本当に楽しい仕事ですね。

—なるほど。最近、仕事で楽しかったこと、嬉しかったことはありましたか。

2年生が紙でいろんなものを作り、お店屋さんごっこをしているのですが、「館長、入店してくださいーい」とミニちらしをもらいました。なぜか「とっとり南店」と書いてある（笑）。かわいいですね。道で拾った木の実や、摘んできたタンポポもたまにもらいます。あとは、保護者からの子育ての相談ですね。アドバイスした後で、解決してにこやかな姿を見ると喜びを感じます。

嬉しそうに「とっとり南店」のミニちらしを見せてくれたあいざわ館長（名札ケースの裏に、大事そうにしまわれていました）。長らく子どもたちの成長を間近で見守ってきた人の、あたたかい話が聞けました。